



つながる・うまれることば、 繋生語（ケイショウゴ）を話す子どもたち

トムソン木下千尋（ニューサウスウェールズ大学・豪州繋生語研究会）

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構・外国人児童生徒教育推進ユニット主催
「多様性が生きることばの教育実践」実践交流会 第1回 2024年8月17日（土）



本日のお話

- 自己紹介とオーストラリアについて
- オーストラリアの調査から分かったこと
- 私たちの「ことば」について
- 繫生語（ケイショウゴ）について



自己紹介をかねて

- オーストラリア、シドニーの UNSW (University of New South Wales)
- 19位 (QS World University Rankings 2024)
- 留学生 35%
- 日本研究プログラム
来年50周年
日本語1～8、上級日本語、
日本の歴史、文化、など
大学院生





オーストラリア・テスト

<https://tinyurl.com/AustrTest>





オーストラリアの日本語教育

- 学習者数が多い：42万人（中国106万人、インドネシア71万人、韓国47万人、オーストラリアは4位）
- 日本国内の日本語学習者数：22万人
- 小中高の学習者が多い：96%
- 小学校の学習者：26万人、世界の8割
- 人口が少ない：2600万人（日本：1億2500万人）
- 人口における日本語学習者数
66人に1人日本語学習中：世界1位



オーストラリアの日本人事情 (1)

パールダイバーの時代

日本語教育？

1880年代から パールダイバーやサトウキビ農夫

1901年 オーストラリア立国 3600人を超える邦人

白豪主義

1939年 第二次世界大戦 97%が収容所に

日本に強制送還

オーストラリアの日本人の歴史が中断

1906年 メルボルン 経済交流

1917年 陸軍士官学校 国防





オーストラリアの日本人事情 (2)

戦争花嫁の時代

1945年 終戦

1946年 オーストラリア兵 広島駐屯 11000人

1952年 日豪平和条約

1950年代 戦争花嫁渡豪 650人

白豪主義 敵国言語、非白人言語

1973年白豪主義と訣別

日本語教育？





オーストラリアの日本人事情 (3)

日豪交流の時代

日本語教育？

1980年 ワーキングホリデー制度開始

高度成長期：企業駐在、富裕層、リタイアメント

日本語教育の津波

1980年～20年間で学習者数40倍

1990年代以降 観光、長期滞在、

永住、移住の増加

従来型ではない日本からの移民

ライフスタイル移住



ライフスタイル移住

長友(2013)

オーストラリアへの移住

- オーストラリアに行く理由:
自然が豊富、ゆったりとした海辺の生活、都会的な西洋社会、男女平等が理想化された欧米社会
- 日本を出る理由:
劣悪なライフスタイル(ジェンダー格差、ブラックな就労環境、社会の閉塞感、ワークライフバランスの欠如。。。)

ライフスタイル移住は「経済的理由や仕事や政治的理由など、伝統的に主流であった移住理由以外の、より広範な意味での生活の質を求めている移住」



オーストラリアの日本人事情（4）

日本とつながる子どもたちの時代

日本外務省調べ（2023年）

在留邦人 10万人（アメリカ、中国に次いで 3位） 7割が女性

永住者 6万人（アメリカに次いで 2位）

オーストラリア国勢調査（2021年）

「日本生まれ」 4万5千人

「日本生まれではない在留邦人」 5万5千人

日本語教育？

ケイショウゴ教育





日豪関係

日豪通商協定署名－2017年で60周年
1970年代から日本は豪州の最重要輸出入先
現在は日本への輸出額第二位

政略的パートナーシップ

国際協力（人道支援、災害救援）、防衛（海上保安、サイバーセキュリティ）

人と人、文化

姉妹都市、修学旅行、J-pop人気、スキー旅行

オーストラリアで日本とつながる子どもたちが置かれている環境

- 多文化多民族主義を国是とする多言語の社会
複言語話者であることが当たり前な社会
- 日豪関係が良好で、親日的。知日家が多い
- 英語圏の国としては特出して日本語教育が盛ん
- 日本のアニメ、マンガは、COOL!
- 先進国でネット環境も整備
- 時差がほとんどない

え？
日本語できるの？
いいな～



オーストラリアの言語

オーストラリアの言語の分類

- 共通言語：英語
- アボリジニ諸言語
- コミュニティー言語
イタリア語、ギリシャ語、ロシア語、中国語、ベトナム語、アラビア語
- 伝統的学習言語
フランス語、ドイツ語、ラテン語、古典ギリシャ語
- 新しい学習言語
日本語、スペイン語、韓国語



オーストラリア調査の経緯

- 2019年 日本語教育推進法施行
- 2020年 国際交流基金委託事業、NSW州における日本語**継承語**話者に関する予備調査報告書（学習環境とリソースに関するアンケート調査、保護者、指導者、運営者、計71名）
- 2021年 豪州繫生語研究会の立ち上げ、豪州における日本語**ケイショウゴ**話者に関する第二期予備調査報告書（同アンケート調査、同上、計246名）
- 2022年 豪州における日本語**繫生語**話者に関するインタビュー調査、および、豪州繫生語研究会の活動の報告書（学習環境とリソースに関するインタビュー調査 127名）



全国調査の対象（アンケート回答者）

	2021調査	2020調査 (NSW)	合計
保護者	193人 (78.5%)	48人 (67.6%)	241人 (76.0%)
教師・指導者・コーチ	33人 (13.4%)	15人 (21.1%)	48人 (15.1%)
運営者・主催者	20人 (8.1%)	8人 (11.3%)	28人 (8.8%)
合計	246人	71人	317人

2022インタビュー調査

	日本語 母語 保護者	非日本 語母語 保護者	指導者	運営者	育った 子ども	育てた ベテラ ンの親	合計
NSW	10	2	5	7	13	12	49
VIC	8	1	3	3	3	2	20
ACT	4	0	2	0	0	0	6
TAS	5	3	0	0	2	1	10
SA	2	1	2	1	2	2	11
WA	2	1	2	1	0	1	7
NT	5	1	3	1	0	1	11
QLD	5	1	1	3	0	2	12
合計	41	10	18	16	20	21	126



2020/2021 アンケート調査より

- 調査対象の日本と繋がる子どもたちは、オーストラリア生まれか、5歳までに渡豪したケースが90%
 - オーストラリア人の父、日本人の母の国際結婚家庭が大半
 - 永住が多い
 - 国際結婚家庭でも、日本語が使われていることが多い
- (Oriyama 2010)



インタビュー調査より

日本人の母、ポーランド系オーストラリア人の父を持つシドニー在住の8歳の男児の日常

- 平日、全日制の日本人学校に通う
- 木曜日放課後、日本語でそろばんを習う
- 金曜日放課後、スペイン人の先生に英語
- 土曜日午前中、ポーランド語のコミュニ
ランド語を習う
- 土曜日午後、日本語で習字を習う
- 土曜日夜、父とポーランド語の宿題をする
- 日本人のベビーシッターがいる

「妻と息子は時々ことばをミックスして、一番話しやすいことばで話す。」

サテライト的ミニ・コミュニティ

日本語で活動する

- サッカー教室
- 書道教室
- オンライン上の将棋クラブ
- 児童文庫

日本語を使う場

日本語補習校（CL校）は
「日本語を教える場」？

- 日本語学習以外の活動
 - おやつ作りなどの体験型活動
- コミュニティとして重要な役割





インタビュー調査より

国際結婚家庭の日本語ができるオーストラリア人の父親のインタビュー・データ

「例えば、クリケットの話などは英語で話した方が話しやすいので英語で、クリスマスなら英語で、お正月のことなら日本語。日本から荷物などが来たら、パッケージは日本語で書かれているのでこのときは日本語になる。学校のことを話す時などは英語。」



子どもたちがオーストラリアで 学ぶ、使う日本語は、国語？

国語：日本という国家を形作る国民のことば

国語教育：「日本国」という国を自分の唯一無二の帰属先とし、そのことばを学ぶことを、そしてそのことばを育んだ社会歴史文化を知り、受け入れること
日本で生まれ育った日本在住の子どもたちのためのカリキュラム

オーストラリアの子どもたちが学ぶべき日本語は、国語ではない

補習授業校

Community
Language School
→CL校

- 文部科学省（2021）による「補習授業校」の目的：「再び日本の学校で勉強するための学習と生活の基礎基本を身につけること」
- 補習授業校では「学習指導要領」に沿った教科書学習を期待
- 永住の家庭の子どもが大半であり、補習校の目的設定から見直しが必要。
- 「学習指導要領」は日本に住む、日本語を使って育った子どもを対象としたもの。海外で使うのは無理。



家庭のことば（アンケートから）

典型的には、母親が日本語話者、父親が英語話者

母親と日本語、または日英の組み合わせて話す子ども（80%以上）

父親と日本語、または日英の組み合わせて話す子ども（30%以上）

オーストラリアは、他国のケースと比較して、国際結婚の場合でも日本語が使用されている傾向が大きい。

- 多文化多民族の国、オーストラリアでは日本語が社会的に受け入れられている。日豪関係が非常に良好である。
- 日本語が母語ではない父親が日本語ができる。日本語を学校で勉強した。日本語ができない父親も多言語話者である。（インタビューから）



私のことば

親や家族が話しかけてくれたことば

育つ過程で関わってくれた人たちのことば

お隣りのおばさん、親戚のおじさん、中華料理屋のお兄さん

市役所の係員さん、交番のお巡りさん

学校で習ったことば、聞いたことば

先生、友達、部活の先輩、教科書

本や雑誌で読んだことば

友達や同僚と話したことば

テレビや映画で聞いたことば

違う土地で違う時代を違う人たちと生きてきた

それぞれの人が
持つことばの
レパートリーは
違う

わたし語 チームもっとつなぐ

<https://tsunagu.jpf.go.jp/watashigo/>

英語、オーストラリア、イギリス
ギリシャ語（食べ物）
日本語、博多弁
韓国語（K-POP）
ラテン語（ハリーポッターの呪文）

英語、オーストラリア、アメリカ
日本語、男の子ことば、関西弁
名探偵コナンの阿笠博士
イタリア語、タイ語

Sure!

どこ行こうか。

ジョイス

しょうた

明日ひま？

Shall we go out?

複言語話者



ケイショウゴについて 1

「継承日本語話者」

国際結婚や親の事情などで海外に移住、または海外で生まれ、日本語が話される家庭で育ち、日本語を使うなんらかの能力がある子どもたち

「継承語」

海外で生活するこどもたちが親から受け継ぐ言葉

- 「国語」でも「外国語・第二言語」でもないことば
- 血のつながり、歴史や文化、社会の正統性の伝承、国家とのつながり、「国語」が理想



ケイショウゴについて 2

「継承語」では語れない子どもたち

- 在日韓国朝鮮人家庭の子ども、日本で生まれ育ったオーストラリア人家庭の子ども
- 国際結婚家庭の子ども、ライフスタイル移民の日本人家庭の子ども

「繫生語」

海外の日本と繋がる子どもたちが親から受け継ぐことばだけでなく、親や家族、友だち、社会との繋がりから生まれ、さらなる繋がりを生み、そこで新しい意味を生み出し、その繋がりや次世代に繋げていくことば、コミュニティのことば

子どもたちが持つ、それぞれの「わたし語」の一部としてのことば

繫生語教育

- オーストラリアのコミュニティで生きていく上で使うことばの一部としての繫生語
- 補習校→C L校の実践
日本文化を内面化した「日本人」の再生産の試み？
- 平日は英語の現地校に通う子どもたち
国際結婚家庭では、家庭でも英語が使われる
現地の小学校の間借り教室
現地の子どもたちのアートワーク、現地校の机の配置
- 日本語、日本文化を持った「ハイブリッドな」オーストラリア人を育てようとする実践（塩原2016）

継承語と繫生語

「継承語」／日本国外の「国語」(教育)

「繫生語」(教育)

親が子どもに伝えなければならない、子どもが学ばなければならないもの

親が子どもに伝えるものも含めて、親子が一緒に使い、育てていくもの

日本、国家、国民、国語を軸にした日本人を育てる教育

日本語をひとりひとりの複言語の一部とみなした世界市民を育てる教育

本質的(理想化された言説上だけの日本、日本語)
静態的(不変であることが理想、変化を受けつけない)

実践的(多様で正解のない、それぞれの日本、日本語)
動態的(ダイナミックに常に変化している日本、日本語)

正しい日本的価値観、望ましい日本人らしさ、正統な日本の社会歴史文化的知識の存在

実践的で動態的な日本、日本社会歴史文化、日本人、日本語の理解

血統を通しての日本との繋がり

日本との多様な繋がり

目指すのは日本の母語話者の母語としての日本語

目指すのはひとりひとりの自己実現のための言語実践としての日本語

繫生語が呪縛を解く

- オーストラリアのライフスタイル移民が、過去に置いてきた日本ではなく、新しい日本を子どもたちと考える手段として使う

繫生語教育とは、「日本人」の再生産や「日本語」を教えるためのものではなく、未来を担う資源豊かな、そして柔軟で多様な視野を持つ子どもを育成することを目的とするもの



豪州繫生語研究会のお知らせ



ホームページ

- <https://sites.google.com/view/anjcl-j/home>

活動

- セミナーシリーズ（オンライン、オンデマンドもあり）
- ニュースレター
- フェイスブック
- 報告書、学会発表、研究論文
- 読み聞かせの会
- つな豪未来（先輩の会）

